

山口情報芸術センター [YCAM] 演劇公演

青年団+大阪大学ロボット演劇プロジェクト

アンドロイド演劇「さようなら」/ロボット演劇「働く私」

2011年6月18日(土) 19:00開演、19日(日) 14:00開演 (30分前開場)

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

アンドロイドやロボットが、俳優と共演する演劇作品

人とロボットのコミュニケーションから見えてくる、“人間らしさ”と“人の心”

山口情報芸術センター[YCAM]では、最先端技術に親しみ、人とロボットのコミュニケーションと、その発展性について考える機会として、劇作家/演出家の平田オリザと、ロボット工学の第一人者、石黒浩によるロボット演劇プロジェクトの2作を上演します。

アンドロイド演劇「さようなら」では、実在のモデルそっくりに開発されたアンドロイドが、そしてロボット演劇「働く私」では、コミュニケーションロボットが、俳優と共演します。人間とロボットが共生する「日常」を描いた本作からは、「人間らしさ」や「人の心」とは何か、といった問いかけや、ロボットを介した多様なコミュニケーションの形が浮かび上がってきます。

公演終了後には、石黒浩らを迎えるトーク(18日)や、ロボットに出会えるイベント(19日)も開催。演劇とロボット工学が導く新たな視点、最先端技術に親しむ機会を、幅広い世代のみなさまに提供します。

チケット情報 ※チケット発売：4月9日(土)

料金：前売 一般 1,300円 / any会員・特別割引 800円 / 25歳以下 600円 当日：1,800円【全席自由】 ※当日は各種割引対象外

ぜひこの機会に、取材や記事掲載にご協力いただきますよう、よろしくお申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当：廣田

TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216 e-mail：information@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市巾着町7-7 <http://www.ycam.jp/>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



アンドロイド演劇「さようなら」 photo: Tatsuo Nambu (提供: あいちトリエンナーレ2010)



ロボット演劇「働く私」(TPAM in Yokohama 2011) photo: Tsukasa Aoki

ロボット演劇プロジェクト

人間と共生するロボットの研究開発に、演劇を活用する

劇作家／演出家の平田オリザと、自分そっくりのジェミノイドの開発でも知られるロボット工学の第一人者、石黒浩によるロボット演劇プロジェクト。ここでは、人間とロボットの共生をシュミレートするひとつの方法として演劇を活用し、俳優とロボットが共演する作品の創作過程を、実際のロボティクスの研究開発に活かしています。

ある世界観を舞台に立ち上げる演劇——。本プロジェクトで創作された作品には、ひとつの「日常」を設定し、検証するといった、演劇の役割を改めて見ることができます。また、本作は、ロボットが身近になった近未来において、人間はロボットとどのようにつきあっていくのか、といった想像を私たちに与えます。ロボットの「人間らしさ」や、ロボットと人間との「自然な」やり取りを試行し、作品として実践することで、本プロジェクトは、研究開発へ、さらに観客へとヒントを与えているのです。それは、演劇を含むパフォーミングアーツのさらなる可能性を拓く試みといえます。

青年団+大阪大学ロボット演劇プロジェクト

大阪大学において、石黒浩研究室(大阪大学&ATR知能ロボティクス研究所)、株式会社イーガー、有限会社アゴラ企画・青年団がおこなっている人間と共生するロボットの研究開発に演劇を活用するプロジェクト。2008年に短編作品「働く私」を上演。2010年、あいちトリエンナーレにて、ロボット版「森の奥」、アンドロイド演劇「さようなら」を発表。創作・上演のプロセスがそのまま研究分野にフィードバックされ、公演全体が「演劇」と「科学」を横断する先端的な「実験」となる、画期的なコラボレーションをおこなっている。

脚本／演出 ポストトークゲスト

photo: Tsukasa Aoki



平田オリザ | Oriza Hirata

劇作家／演出家

1962年東京都生まれ。こまばアゴラ劇場芸術監督、劇団「青年団」主宰、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授、内閣官房参与。

1982年に劇団「青年団」結成。「現代口語演劇理論」を提唱し、1990年代以降の演劇に大きな影響を与える。1995年「東京ノート」で第39回岸田國士戯曲賞受賞。2003年日韓合同公演「その河をこえて、五月」で第2回朝日舞台芸術賞グランプリ受賞。2006年モンブラン国際文化賞受賞。近年は、フランスを中心にベルギー・中国など各国との国際共同製作作品を多数上演。

「働く私」ロボット側監督／プロデューサー アフターアワーカフェ出演

黒木一成 | Kazunari Kuroki

ロボットプロデューサー

1961年大分県生まれ。情報処理技術者、大阪大学非常勤講師／株式会社イーガー取締役会長。主に家電製品を中心とした組み込み系ソフトウェア・ハードウェアの開発をおこなっている。主なロボット開発として、ダンボール製ロボット「D+ropop」、飲食業向けロボット「ARC」、遠隔操作ロボット「AvatarNT」等がある。株式会社イーガー <http://www.eager.co.jp>

テクニカルアドバイザー ポストトークゲスト



石黒浩 | Hiroshi Ishiguro

ロボット研究者

1963年滋賀県生まれ。大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻教授、国際電気通信基礎技術研究所(ATR)フェロー。工学博士。

社会で活動できる知的システムを持ったロボットの実現を目指し、これまでにヒューマノイドやアンドロイド、自身のコピーロボットであるジェミノイドなど多数のロボットを開発。ロボカップ世界大会では5度の優勝(TeamOSAKA)。「世界の生きている天才」ランキング(英Synectics/2007年)では日本人最上位の26位選出、「世界が尊敬する日本人100人」(ニューズウィーク日本版/2009年)に選出など、最先端のロボット研究者として世界的に注目されている。

イベント ロボティクスの最前線を知る。ロボットに出会える。

終演後の2つのイベントで、人間とロボットの新しい関係を、発見する・体験する

■ ポストトーク [6月18日(土)終演後]

演劇とロボットの最新関係に迫る

平田オリザ(劇作家/演出家)と石黒浩(ロボット研究者)によるトークイベント。演劇の創作と、研究現場の様子についてご紹介するとともに、演劇がロボット工学に果たせる役割や、ロボットが演劇にもたらす展望について考えます。

■ アフターアワーカフェ [6月19日(日)終演後]

ロボットに出会える、交流する

終演後には、気軽に作品についての感想を交換したり、作品鑑賞のポイントを深めるスペース「アフターアワーカフェ」。今回は、作品「働く私」に登場するコミュニケーションロボット「wakamaru」と共演俳優、さらにロボットを操作する技術者が登場。ロボットに出会い、質問したり、感想を話したり、実際の出演者、スタッフとの交流を楽しめます。



ロボット演劇「働く私」(TPAM in Yokohama 2011)
photo: Tsukasa Aoki

公演 アンドロイド演劇とロボット演劇

ロボット工学の最先端技術と演劇がコラボレーションした2つの作品、アンドロイド演劇「さようなら」とロボット演劇「働く私」。人間に酷似したアンドロイドと、人間と共に暮らすことを目指すロボットが登場する本公演には、人間とロボット、ロボットとロボットを介した人間同士、という多層的な関係性、コミュニケーションの形が見えてきます。

■ アンドロイド演劇「さようなら」

死を目の前にした少女と、アンドロイド「ジェミノイドF」の静かな会話劇。

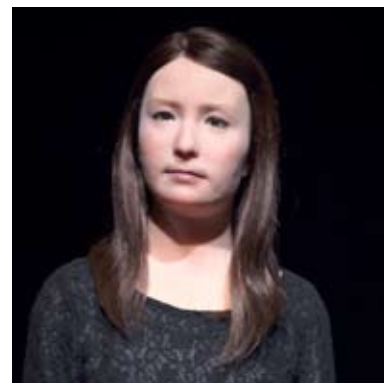
実在する人物の姿を精巧にコピーしたアンドロイドは、データ通信により、俳優(操作者)の表情と声を再現するため、より人間に近い「存在感」を持ち合わせます。舞台上に共存するアンドロイドと俳優を前に、観客は、どちらが人間なのか一瞬わからなくなり、操作者でさえ、アンドロイドの身体に自らを錯覚します。「ロボットと人間の境界」への新たな視点をもたらす本作には、ロボットやサイボーグに投影される人間の姿と、精密な装置としての人間の身体という、2つの人間性を見ることができます。人間とロボットが紡ぎ出す、生と死の物語は、私たちに、人間らしさとは何かを改めて問いかけてます。

脚本/演出：平田オリザ

テクニカルアドバイザー：石黒 浩(大阪大学&ATR知能ロボティクス研究所)

出演：アンドロイド「ジェミノイドF」、ブライアリー・ロング(青年団)

アンドロイドの動き/声：井上三奈子(青年団)



アンドロイド演劇「さようなら」(TPAM in Yokohama 2011)
photo: Tsukasa Aoki

公演

ロボット演劇「働く私」

一組の夫婦と2体のロボットと一緒に暮らす近未来を舞台に、働けなくなったロボットの姿から、人間とロボットの関係を描いた物語。

実際にイベントなどのガイド役で使用されている、三菱重工開発のコミュニケーションロボットwakamaruが、働き者のモモコと、働けなくなったタケオの役で登場します。働くことを機能とするロボットが、働けなくなったら、という物語には、ロボットと人間が互いを気遣う関係、さらに人間がロボットに投影していく「人の心」のあり方が見えてきます。また、本作では、人間とロボットの「自然な」対話を実現するため、台詞を発する「間」においても、緻密な演出がなされています。ロボットの最前線とともに、演劇が果たすロボティクスへの新たな試行にもご注目ください。

脚本/演出：平田オリザ

テクニカルアドバイザー：石黒 浩(大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻)

ロボット側監督/プロデューサー：黒木一成(株式会社イーガー)

出演：ロボット「wakamaru」2体、太田宏(青年団)、井上三奈子(青年団)

※「wakamaru」は三菱重工が開発したコミュニケーション・ロボットです。



ロボット演劇「働く私」提供：株式会社イーガー

開催概要

山口情報芸術センター [YCAM] 演劇公演

青年団+大阪大学ロボット演劇プロジェクト

アンドロイド演劇「さようなら」/ロボット演劇「働く私」

2011年6月18日(土) 19:00開演

19日(日) 14:00開演(各回30分前開場)

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

※上演時間約2時間(途中休憩あり)

関連イベント

6月18日(土)終演後 **ポストトーク**

ゲスト：平田オリザ(劇作家/演出家)、石黒浩(ロボット研究者)

6月19日(日)終演後 **アフターアワーカフェ**

出演：ロボット「wakamaru」、俳優、ロボット操作者

主催：公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

支援：平成23年度文化庁優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

宣伝美術：尾原史和(SOUP DESIGN)

舞台監督：中西隆雄

舞台美術：杉山 至(青年団)

照明：岩城 保(青年団)

衣裳：正金 彩(青年団)

ロボット側ディレクター(アンドロイド演劇「さようなら」)：カ石武信(大阪大学石黒浩研究室)、小川浩平(ATR知能ロボティクス研究所)

ロボット側ディレクター(ロボット演劇「働く私」)：窪田修司(株式会社イーガー)、伊藤順吾(株式会社イーガー)

wakamaruデザイン：喜多俊之

演出助手：渡辺美帆子(青年団)

制作：野村政之(青年団)

製作：大阪大学石黒浩研究室、ATR知能ロボティクス研究所(アンドロイド演劇「さようなら」)、株式会社イーガー(ロボット演劇「働く私」)、有限会社アコラ企画・青年団

チケット情報

※チケット発売：4月9日(土)

料金：[全席自由]

前売 一般1,300円/any会員・特別割引800円/25歳以下600円

当日1,800円 ※当日は各種割引対象外

電話/窓口：

山口市文化振興財団チケットインフォメーション(YCAM内)

083-920-6111 (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

インターネット：

<http://www.ycfcp.or.jp/> (24時間受付 ※要事前登録)

■特別割引：シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。

■未就学児入場不可。

■託児サービス

対象：0才(6ヶ月)以上

託児時間：開演の30分前から終演30分後まで

料金：お子様1人につき500円、2人目以降は1人につき300円

申込方法：6月11日(土)までにチケットインフォメーションまでお申し込みください。

■車椅子席・補聴システム：事前にお問い合わせください。